

蔵屋さんとのスカイプミーティング後メモ書き

田中功起 2012年2月28日

ミーティング前のコンセンサス

- ・複数の異なるバックグラウンドを持つ人びとの共働。避難所のメタファー。
- ・アイデア、インスタレーションに海を取り入れる。

↓

- ・蔵屋さんからの提案「たくさんとタスクをいろいろな人びとが行う」
- ・数を増やすことで見えてくることがある？

↓

- ・タスクの複数化
- ・タスクレベルをばらばらにする
- ・ひとつのタスクを複数のグループで行う

→参加者とグルーピング：どんな職業、人びとが考えられるか。

- ・ばらばらの職業、年齢、性別、出身
- ・豆腐屋、漁師、詩人、建築家、画家、コンビニ店員、学生、電気や、テイラ

ー

→タスクを考えるためのルール

- ・計画停電の経験→通常電気を使うこと、ものを電気を使わずに行う（田中）
- ・電気に頼らない制作→絵画（田中）
- ・電気に頼らないということは原発に頼らないこと
- ・アンプラグド・タスク

→震災以前以後で同じ行為であっても、文脈が変わったことにより意味合いが変化している。e.g. 自然光で絵を描くという行為が反原発というポリティカルな行為となる。

・タスクの種類と関係すること

- 夜道を懐中電灯を持って歩く（子供たち、Twitter経由）

- エレベーターを使わずに階段で上る (T) →たくさんのひとで高いビルの階段を下りる？
- コピー機が使えない (T) →手書きでコピーする？
- 信号機が使えない (T) 。ゆずりあいでの運転。
- 地理感が変わる (T) 。計画停電によって自分の住んでいる、仕事をしている地域を意識した。
- 自転車をこぐ→どのくらいの距離を移動すれば原発一基分の電気量になるのか。
- 放射能によってペットボトルを飲むこと意識化された (gabe) →
- 真っ暗闇で絵を描く？
- 動物の餌をあげるために避難区域に行かなければならなかった。
- 津波の高さ？
- インタビューをからめたタスク？
- 電気や火を使わない食事→コンビニの菓子パン、おにぎり、日持ちする食べ物
- 波に流されたものが戻ってくる？
- 自販機の中身を提供する
- 自宅まで歩いて帰る
- 益子 登り窯が壊れた→登り窯は電気を使わない
- 益子 濱田庄司のコレクション (益子参考館) が壊れた→修復？
- 計画停電の一部再現→資料・イメージを集める？
- ろうそくを使う
- お風呂のお湯を沸かせない→ガスで沸かす
- 動物 餌 ウナギを川に流す (植田)
- そのへんにあるものを使って火をおこす
- 自転車で湯を沸かす
- 野菜の産地

- 床屋さん

3.11一周年を機に、このところ日本では毎日TVで被災地関係のドキュメンタリーをやっていますが、いち早く活動をはじめ、仮店舗をオープンさせたのは、多くの地域で美容院だったようです。食べる、寝る、など命にかかわるものではないのに、髪がさっぱりしないと人間の気力は相当萎えますね。美容師のボ

ランティアグループなんかもあったようで、久々にこざれいに髪を整え、お化粧をしてもらおうと、女性はどんな年齢の人でも見違えるように生き生きしてました。（蔵屋）

- 広島のカキ養殖業の人たちが、松島の同業者を助けるとか、助け合いになると個々の職能ごとの連携が際立つみたいですね。プロはプロ同士、ってことでしょうが、ここをなにかいじれないかな、と（プロ同士なのにぜんぜん違うタスクを達成しなければならないとか）。（蔵屋）